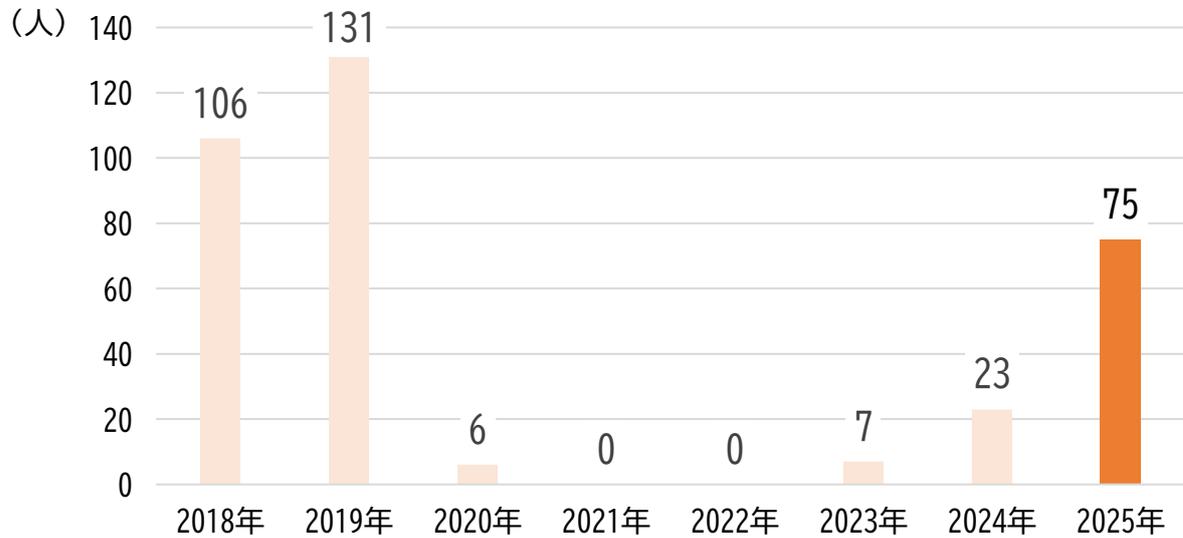


# 百日咳の患者報告数が増加しています！（注意喚起）

## 県内における百日咳の発生状況

感染症発生動向調査による医療機関からの届出数より作成



※2023年、2024年は速報値、2025年は第1週～第14週までの速報値です。

## 百日咳の概要

- ・百日咳は、百日咳菌によって発生する感染症で、激しい咳を伴います。
- ・いずれの年齢でもかかりますが、小児が中心となっています。
- ・経過は3期(カタル期、痙咳期(けいがいき)、回復期)に分けられ、全経過で約2～3か月で回復するとされています。

### ①カタル期:約2週間持続

かぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

### ②痙咳期(けいがいき):カタル期の後に約2～3週間持続

次第に特徴のある発作性けいれん性の咳(痙咳)となります。

### ③回復期

激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなります。

- ・患者の咳やくしゃみなどのしぶきによる飛沫感染や、感染者と接触したりすることによる接触感染により、感染します。
- ・生後6か月以上は、抗菌薬による治療が検討されます。また、咳が激しい場合には咳止め等の対症療法がおこなわれることがあります。

## 百日咳の予防と対策

- ・手洗いやマスクの着用、咳エチケットなど、基本的な感染対策が重要です。
- ・百日咳の予防には、5種混合ワクチン(DPT-IPV-Hib)等の接種が有効です。予防接種法に基づく定期予防接種が実施されていますので、生後2か月に達したら、計画的に5種混合ワクチンを接種しましょう。